

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	長野工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	工学科			8	24	32	7	
	生産環境システム専攻			6	10	16	7	
	電気情報システム専攻				6	12	7	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/open

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	長野工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立高等専門学校 理事（2024年4月1日～2026年3月31日）	2026年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026年4月1日～2026年10月15日	総務
非常勤	東京大学教授	2026年4月1日～2028年3月31日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026年4月1日～2028年3月31日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は2024年3月31日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長野工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本科、専攻科ともに全科目シラバスを作成して公表している。 シラバスはWeb上に公表しており、本校関係者以外も閲覧が可能となっている。 シラバスに入力すべき項目は以下の5つ。 (a) 科目情報・到達目標(「授業形態」,「科目区分」,「開設学期」,「対象学年」などを記載) (b) 評価(ルーブリック)(「達成レベルの目安」を記載) (c) 学科の到達目標項目との関係 教育方法等: (「授業概要」,「授業の進め方と授業内容・方法」,「注意点」として「成績評価」,「オフィスアワー」,「先修・後修科目」などを記載する。) (d) 授業計画(前期:15週,後期:15週で週ごとに「授業内容・方法」,「週ごとの達成目標」を記載) (e) 評価割合(「試験」,「小テスト」,「平常点」,「実技とレポート」,「その他」の各項目の「総合評価割合」と「配点」について記載する。合計が100点になるようにする。) ・シラバスデータの入力締め切りは、1月中旬とし、教務委員会で確認する。 ・公表については、4月にホームページで公表する。	
授業計画書の公表方法	https://www.nagano-nct.ac.jp/course/syllabus
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本科 学業成績の評定は、各授業科目の達成度試験の得点及び平素の成績(課題等の評価)に基づき100点満点の点数で行い、教員会議で決定している。(卒業研究、実務訓練、キャリアデザイン、キャリア演習、海外研修及び他高専・他大学の科目は優、良、可、不可の評語をもって行う) 評点と評語の関係を次のように定め、科目の学業成績が60点以上または優、良、可のいずれかで単位を修得したものと認めている。 評点と評語の関係: 優 100～80点, 良 79～70点, 可 69～60点, 不可 59～0点 専攻科 学業成績はすべての科目において、本科と同様に100点法によって評価し、秀、優、良、可に評価された授業科目について単位を修得したものと認めている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本科 客観的な指標として全科目の平均点としている。 履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)。 評価基準は「学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」に定めている。 専攻科 成績評価を客観的な指標に置き換え、学生の学修意欲を高めるとともに、客観的な成績評価を教員の修学指導に活用することを目的に、GPA制度を導入している。 グレードポイント(GP)及び評価基準、GPAの算出方法を「授業科目履修規則」に定めており『学生便覧』に掲載して学生に周知している。 (成績評価の基準) 秀：100～90点・・・4，優：89～80点・・・3，良：79～70点・・・2，可：69～60点・・・1，不可：59～0点・・・0 (GPAの算出方法) (履修登録した授業科目の単位数) × (各授業科目のGP) の総和 ÷ 履修した各授業科目の単位数の総和 ・小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/open
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本科

卒業認定方針

目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取組み、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 工学全般にわたる基礎学力，応用力および人文社会科学の素養
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力
3. グローバル化への対応能力

卒業は学年成績及び特別活動の履修状況を総合して、執行会議において審議し、校長が決定する。

専攻科

修了認定方針

目標とする人材像と各専攻の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう 主体的学習に取組み、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。

1. 理工学分野における，より専門性の高い知識・技術力
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力，チームワーク力
3. グローバル化への高い対応能力

修了の判定は執行会議の議を経て校長が行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	長野工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/evaluation

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/evaluation

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule) (概要) ものづくりに必要な工学分野共通の基礎を教育した上で、自ら選択した領域の専門性と周辺領域の知識、高い教養と情報処理能力を身につけるとともに、社会性及び人間性を兼ね備えた国際的に活躍できる実践的・創造的な技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 目標とする人材像に即して、自ら課題を発見し解決することができるよう主体的に学び、以下に示す能力等を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力及び一般教養 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力 3. 社会のグローバル化に対応する能力 4. 様々な人々との協働
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。 1. 理数系及び人文社会系などのリベラルアーツ科目と、データサイエンスを含む分野横断的な共通専門科目、並びに各系における専門科目を授業科目として編成します。 2. 実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験・実習、卒業研究などを通じて、課題の発見能力、解決能力及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。 3. 異文化を理解し、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。 4. 地域の文化を理解し、人間力を育成する授業科目を編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 入学者として次のような人を広く求めます。 1. 中学校での教育を修めた人、またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり、英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. ものづくり、情報技術、その他の工学に関連する技術や研究に興味を持っている人、または工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule) (概要) 自動車やロボット等の各種機械の開発・設計ができ、それらを作り出すために必要な製造・生産技術を駆使できる能力を身につけ、機械工学を社会との関連の中で捉えながら、技術革新に対応できる実践的・創造的な技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力および人文社会科学の素養 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力 3. グローバル化への対応能力 4. 機械工学に関する設計、製作、計測などものづくりに必要な知識・技術
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。 1. 理数系基礎科目および人文社会系の教養科目を低学年に、工学系科目を高学年に配置します。 2. 実践的な問題解決型学習、アクティブラーニングによる学習、実験実習、卒業研究などを通じて、課題の発見能力、解決能力および論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。 3. 異文化を理解し、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。 4. 機械工学に関する基礎的な知識・技術が修得できるよう、基礎科目ならびに設計製図、工場実習、工学実験などの実験、実習および実技科目をバランス良く編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 機械工学科は、目的を持ち勉学に取り組むことのできる、次のような人を広く求めます。 1. 中学校での教育を修めた人、またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり、英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. ものづくり、プログラミングその他の機械工学に関連する技術や研究に興味を持っている人、または機械工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人

学部等名 電気電子工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule) (概要) 電気及び電子工学の将来の進歩に対応して活躍できるよう、基礎理論をしっかりと身につけ、環境との共生に配慮しつつ、電力・電子・情報の各分野を包括して、電気電子システムを統合的に構築できる実践的・創造的な技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力および人文社会科学の素養 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力 3. グローバル化への対応能力 4. 電気電子工学におけるエネルギー変換、エレクトロニクスおよび情報通信に関わる各分野の知識・技術
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。 1. 理数系基礎科目および人文社会系の教養科目を低学年に、工学系科目を高学年に配置します。 2. 実践的な問題解決型学習、アクティブラーニングによる学習、実験実習、卒業研究などを通じて、課題の発見能力、解決能力および論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。 3. 異文化を理解し、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。 4. 電気電子工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう、基礎科目ならびに電気電子工学実験、電気工事士セミナー、電気電子製図などの実験、実習および実技科目をバランス良く編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 電気電子工学科は、目的を持ち勉学に取り組むことのできる、次のような人を広く求めます。 1. 中学校での教育を修めた人、またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり、英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. 電子工作や実験が好きで、電気エネルギー、エレクトロニクス、情報通信など電気電子工学に関連する技術や研究に興味を持っている人、または電気電子工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人

学部等名 電子情報工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule)
(概要) 電子工学に関するハードウェア技術及び情報工学に関するソフトウェア技術に加え、コンピュータ科学に関する総合的技術を有し、今日の高度情報社会で必要とされる幅広い技術分野に対応できる実践的・創造的な技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy)
(概要) 目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組む、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力および人文社会科学の素養 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力 3. グローバル化への対応能力 4. 電気電子工学、情報工学に関するハードウェア・ソフトウェアの知識・技術
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy)
(概要) ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。 1. 理数系基礎科目および人文社会系の教養科目を低学年に、工学系科目を高学年に配置します。 2. 実践的な問題解決型学習、アクティブラーニングによる学習、実験実習、卒業研究などを通じて、課題の発見能力、解決能力および論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。 3. 異文化を理解し、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。 4. 電気電子工学および情報工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう、基礎科目ならびに工学実験実習、情報処理演習などの実験、実習および実技科目をバランス良く編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy)
(概要) 電子情報工学科は、目的を持ち勉学に取り組むことのできる、次のような人を広く求めます。 1. 中学校での教育を修めた人、またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり、英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. ものづくり、プログラミングその他の電子情報工学（電気電子工学・情報工学）に関連する技術や研究に興味を持っている人、または電子情報工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人

学部等名 環境都市工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule) (概要) 環境にやさしい理想のまちづくりや、かけがえのない生活環境を次世代に引き継ぐことを目指し、自然環境や社会環境に配慮し、かつ安全にして文化的な生活が営まれるような社会基盤の整備に当たる実践的・創造的な技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組む、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力および人文社会科学の素養 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力 3. グローバル化への対応能力 4. 環境都市工学（土木工学・建設工学・社会システム工学）に関するまちづくり・社会基盤デザインの知識・技術
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。 1. 理数系基礎科目および人文社会系の教養科目を低学年に、工学系科目を高学年に配置します。 2. 実践的な問題解決型学習、アクティブラーニングによる学習、実験実習、卒業研究などを通じて、課題の発見能力、解決能力および論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。 3. 異文化を理解し、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。 4. 環境都市工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう、基礎科目ならびに実験実習、設計製図などの実験、実習および実技科目をバランス良く編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 環境都市工学科は、目的を持ち勉学に取り組むことのできる、次のような人を広く求めます。 1. 中学校での教育を修めた人、またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり、英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. ものづくり、プログラミングその他の環境都市工学（土木工学・建設工学・社会システム工学）に関連する技術や研究に興味を持っている人、または環境都市工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人

学部等名 生産環境システム専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule)
(概要) 機械・電子制御，生産システムまたは土木・都市環境に関連する専門知識・技術をより深く修得・応用し，知能機械装置，製造システム，社会基盤の整備等の分野で開発・研究ができる実践的・創造的な技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy)
(概要) 目標とする人材像と各専攻の人材養成上の目的に即して，自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み，以下に示す能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。 1. 理工学分野における，より専門性の高い知識・技術力 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力，チームワーク力 3. グローバル化への高い対応能力 4. 機械・電子制御，生産システムまたは土木・都市環境に関連するより深い専門知識・技術力および知能機械装置，製造システム，社会基盤の整備等の幅広い分野に柔軟に対応できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy)
(概要) ディプロマポリシーを達成するために，以下のカリキュラムポリシーに則り，教育課程を編成します。 1. より専門性の高い知識・技術内容の修得を目的として，理工学分野の科目を設定します。 2. 設計，開発における具体的な体験・学習を目的として，学外での実習等の関連科目を設定します。 3. 学際的素養が身につくよう国際社会に通用する外国語，歴史，技術者倫理等の科目を設定します。 4. より高度な幅広い技術内容を修得するために，生産・建設システム関連科目，材料・設計関連科目およびエネルギー・環境システム関連科目を設定します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy)
(概要) 入学者として次のような人を広く求めます。 1. 技術，科学及び語学の素養のある人 2. 幅広い知識・技術の修得に意欲のある人 3. 先導的技術者として産業界で活躍し，社会に貢献する意思のある人

学部等名 電気情報システム専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule) (概要) エレクトロニクス、情報通信、電力に関連する専門知識・技術をより深く修得・応用し、電気電子機器、電子デバイス、電子通信システム、計算機・情報システム等の分野で開発・研究ができる実践的・創造的な技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 目標とする人材像と各専攻の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組む、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。 1. 理工学分野における、より専門性の高い知識・技術力 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力、チームワーク力 3. グローバル化への高い対応能力 4. エレクトロニクス、情報通信、電力に関連するより深い専門知識・技術力および電気電子機器、電子デバイス、電子通信システム、計算機・情報システム等の幅広い分野に柔軟に対応できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。 1. より専門性の高い知識・技術内容の修得を目的として、理工学分野の科目を設定します。 2. 設計、開発における具体的な体験・学習を目的として、学外での実習等の関連科目を設定します。 3. 学際的素養が身につくよう国際社会に通用する外国語、歴史、技術者倫理等の科目を設定します。 4. より高度な幅広い技術内容を修得するために、電気・情報・生産システム関連科目およびエネルギー関連科目を設定します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/policy) (概要) 入学者として次のような人を広く求めます。 1. 技術、科学及び語学の素養のある人 2. 幅広い知識・技術の修得に意欲のある人 3. 先導的技術者として産業界で活躍し、社会に貢献する意思のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/org>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
工学科	－	34 人	24 人	3 人	8 人	0 人	69 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
6 人		26 人					32 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/org https://www.nagano-nct.ac.jp/course/teachers					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学科	200 人	204 人	102.0%	1000 人	1014 人	101.4%	若干名	5 人
機械工学科	0 人	0 人	-%	0 人	4 人	0%	0 名	0 人
電気電子工学科	0 人	0 人	-%	0 人	1 人	0%	0 名	0 人
電子情報工学科	0 人	0 人	-%	0 人	1 人	0%	0 名	0 人
環境都市工学科	0 人	0 人	-%	0 人	1 人	0%	0 名	0 人
合計	200 人	204 人	102.0%	1000 人	1021 人	102.1%	若干名	5 人
生産環境システム専攻	12 人	13 人	108.3%	24 人	30 人	125.0%	人	人
電気情報システム専攻	8 人	11 人	137.5%	16 人	20 人	125.0%	人	人
合計	20 人	24 人	120.0%	40 人	50 人	125.0%	人	人
(備考) 令和4年4月改組により「工学科」新設、「機械工学科」「電気電子工学科」「電子制御工学科」「電子情報工学科」「環境都市工学科」は募集停止中								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学科	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
機械工学科	35 人 (100%)	20 人 (57.1%)	15 人 (42.9%)	0 人 (0.0%)
電気電子工学科	36 人 (100%)	17 人 (47.2%)	19 人 (52.8%)	0 人 (0.0%)
電子制御工学科	40 人 (100%)	24 人 (60.0%)	15 人 (37.5%)	1 人 (2.5%)
電子情報工学科	36 人 (100%)	21 人 (58.3%)	14 人 (38.9%)	1 人 (2.8%)
環境都市工学科	37 人 (100%)	11 人 (29.7%)	25 人 (67.6%)	1 人 (2.7%)
合計	184 人 (100%)	93 人 (50.5%)	88 人 (47.8%)	3 人 (1.6%)
生産環境システム専攻	15 人 (100%)	1 人 (6.7%)	14 人 (93.3%)	0 人 (0.0%)
電気情報システム専攻	13 人 (100%)	6 人 (46.2%)	7 人 (53.8%)	0 人 (0.0%)
合計	28 人 (100%)	7 人 (25.0%)	21 人 (75.0%)	0 人 (0.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 令和4年4月改組により「工学科」新設、「機械工学科」「電気電子工学科」「電子制御工学科」「電子情報工学科」「環境都市工学科」は募集停止中				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

・ Web シラバスシステム <https://syllabus.kosen-k.go.jp> へアクセスし、「高専統一認証基盤(共通認証 ID)」でログインして教員が直接入力する。(入力作業は、12月中旬から開始する。)

シラバスへの入力項目は以下の5つとしている。

(a) 科目情報・到達目標(「授業形態」,「科目区分」,「開設学期」,「対象学年」などを記載)

(b) 評価(ルーブリック)(「達成レベルの目安」を記載)

(c) 学科の到達目標項目との関係

教育方法等:(「授業概要」,「授業の進め方と授業内容・方法」,「注意点」)として「成績評価」,「オフィスアワー」,「先修・後修科目」などを記載する。)

(d) 授業計画(前期:15週,後期:15週で週ごとに「授業内容・方法」,「週ごとの達成目標」を記載)

(e) 評価割合(「試験」,「小テスト」,「平常点」,「実技とレポート」,「その他」の各項目の「総合評価割合」と「配点」について記載する。合計が100点になるようにする。)

・ シラバスデータの入力締め切りは、1月中旬とする。

・ 公表については、4月にホームページで公表する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本科

卒業認定方針

(工学科)

目標とする人材像に即して、自ら課題を発見し解決することができるよう主体的に学び、以下に示す能力等を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力及び一般教養
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力
3. 社会のグローバル化に対応する能力
4. 様々な人々との協働力

(機械工学科,電気電子工学科,電子制御工学科,電子情報工学科,環境都市工学科)

目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取組み、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力および人文社会科学の素養
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力
3. グローバル化への対応能力

卒業は学年成績及び特別活動の履修状況を総合して、執行会議において審議し、校長が決定する。

専攻科 修了認定方針 目標とする人材像と各専攻の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう 主体的学習に取組み、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。 1. 理工学分野における、より専門性の高い知識・技術力 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力、チームワーク力 3. グローバル化への高い対応能力 修了の判定は執行会議の議を経て校長が行う。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	電子情報工学科	167 単位	有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・無	単位
	生産環境システム 専攻	62 単位	有・無	単位
	電気情報システム 専攻	62 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.nagano-nct.ac.jp/access>
<https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/sup>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	工学科	234,600 円	84,600 円	9,950 円～ 11,150 円	「工学科」は令和4年4月発足。その他学科は募集停止中（留年学生在籍）。 日本スポーツ振興センター掛金1,550 円 寄宿料 8,400 円～9,600 円（寮生のみ）
	機械工学科				
	電気電子工学科				
	電子情報工学科				
	環境都市工学科				
	生産環境システム専攻 電気情報システム専攻	234,600 円	84,600 円	9,950 円～ 11,150 円	日本スポーツ振興センター掛金1,550 円 寄宿料 8,400 円～9,600 円（寮生のみ）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・低学年次は混合学級制をとっている。 ・担任制をとっている。 ・オフィスアワーを設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・企業現場見学を実施している。 ・本科4年生、専攻科1年生でインターンシップを実施している。 ・キャリアセミナーを実施している。 ・相談員によるキャリア相談を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生生活を送る上で生じる様々な障害，トラブル，健康，悩みの相談に応じるため，学生相談室を設置し，常勤によるカウンセラーをはじめ，看護師，教員スタッフにより支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://nagano-nct.repo.nii.ac.jp/?page=1&size=20&sort=controlnumber

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G120110105966
学校名（〇〇大学 等）	長野工業高等専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		94人（58）人	93人（61）人	－
内 訳	第Ⅰ区分	21人	20人	
	（うち多子世帯）	(-)	(-)	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	(-)	(-)	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	(-)	(-)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	13人	－	
	区分外（多子世帯）	39人	45人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				102人（62）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	-
計	人	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	-	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	-	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。